



岐蘇林多

- 目次
- 森林と養蜂
- 林業經營に就て
- 材木の病害驅除
- 諸君に望む
- 問題の提唱
- 初雪の日に
- 箱根みやげ
- 彙報

日四十月六年四十四治明 日五廿月每定 號四十三百第 日五廿月二十年九正大
可認物便郵種三第 行發期定

森林と養蜂

N 生

先日發火演習で日義村へ行つた時諸先生と一所に野口垣氏の養蜂場の中へ這入つて見た、和種洋種合せて百數十の家族が尙盛んに活動して居つた

其時學校でも飼育して見やうとの議が起つて皆賛成の様であつた、來年あたりから初められる事であらう、至極結構なことである

僕も以前に——未だ學生であつた時に——一二度やつて見たとがあつたが管理法の悪かつた爲か見事に失敗してしまつた、然し今でも尙飼つて見度と思つて居る

由來養蜂は森林と大なる關係を持つて居る此の森林と養蜂との關係に付ては二つの方面から考へねばならぬ、先第一に森林樹木の花である、花は蜂の牧場である蜜の泉源である、此の花の所有者として森林は重用なる位置を保つて居る、次に森林樹木より得られる木材である、木材は養蜂家に巢箱巢框建物其他種々なる用具を作るべき材料を供給する

凡そ動物の棲家で蜜蜂の巢位能く人に研究せられたものは少からう、蜂巢の中は一つの家庭である而して一つの工場である巢中の住民は其中に生活をし其中に労働して居る今彼等の勤勉なる生活の状態、労働の模

様等をしらべて見度いと思ふなら其の中部を覗かなければならぬ、其處に我々人類の賢者にも驚嘆の念を起さしめ快哉を叫ばしめ大なる教訓を與へ且美味なる食料をも與ふる此の不思議なる昆虫の非常な活動を目撃することが出来る

我々人類の爲に此位一生懸命に何時でも働いて居る者は他に類が有るまい、又其の報酬として人類から此位好遇を受けて居る者も少からん

然し此所には蜜蜂の灯提持をして教訓者又は労働者としての顯著なる價值を細々と述べ立てるのが本旨ではない只養蜂に當り必要な木材に付て述べるのが目的である

蜂蜜が食用に適することに發見した古代の野蠻な人間は蜂に螫されて苦痛を感じたことであらうと思はれる、然し蜂が何時刺しても此の蜜盗人を撃退することは不可能であつた蜜の味が非常に甘い故少し位刺されるのは意としなかつたからである

凡そ人類が身邊に貯藏した最初の食糧は、「エヂプト」の墓から發見された蜜壺であつたらう、——此壺は多分死者が三途川を渡つて旅行する間の糧食として供へられたものであらう

此の蜜壺が發見せられた時蜜はから／＼に乾いて砂糖の様になつて美味を失うては居たが尙蜂蜜であると云ふことを明認し得たのである、或説に依ると今日「エヂプト」に生存して尙「エヂプト」人に苦痛を與へ

て居ると全く同様な蚤の死体が其の蜜の一杯入った底に在つたことである。想像するに其の蚤は死者に引導でも渡さず側に供へられた蜜壺中に飛込みやがて枯をせられ閉ぢ込められ、丁度眞の愛國者が祖國の爲に從容として死に就く時の如く「死の味は甘し」とでも云うたことであらう斯して其蚤は蜂蜜の未軟い内に底に沈み數千年間甘き永遠の夢を見て居る所を考古學者の眼に留つたのである(續)

林業經營に就て

西澤生

本邦の如き氣候温暖地味肥沃共に最も林業經營に適せる森林國でありながら、木曾吉野、秋田、青森等の一部を除くの外は殆んど收益を擧ぐるに能はざるの不毛地のみなき。されば斯様な不毛且つ荒廢せる所の原因は如何と云ふに之れには種々の事情を有するならん。往古に於ては第一國民にして愛林思想に乏しき事、第二には維新の際に森林を濫伐したる事等が最も至大の關係を有し又近時は山村僻地に於ける交通機關の發達に伴ひ、此等の住民は經濟上唯一の收入となすべき其生産物資は世間需用の増進に伴ひ多少其時價を高めれるを以て眼前經濟不如意の爲め、到底永久的土地位の業途を擇ぶ迄あらざして、専ら姑

息の經營に轉じて、或は濫りに不合理の産業を執り、或は尙も多少の價値あるものは汲々之れが濫用敢て進んで后圖を考へ前途を策するもの少く、僅かに一時眼前の經濟利益をのみ之れ事とするの止むなき結果貴重なる祖先傳來の生産を擧げて處分し、古來斧鉞を加ふることなき原生林も殆んど無代に等じき二束三文の拾遺せし所謂乱伐乱採の爲め林地は益々荒廢するに至る。

然らば此荒廢地を今後如何なる方法を講ずれば之が復舊の實蹟を擧げ得べきや、頗る至難なる問題にして容易に判斷し難きは勿論なるが、聊か卑見を試みるに。之れには法規の力に據りて直接には保安林、砂防指定地、造林命令地、施業指定地、開墾制限地等を設けて荒廢の原因及誘因の發生を防止し、間接には補助金を下付して造林の奨励を爲し以て荒廢地の増大を防ぎ既に甚しく荒廢せるものに對しては特別の事業として砂防法に據る砂防工及び森林法に據る荒廢地復舊事業を以て之が復舊に努めしむると同時に亦一面には未だ斯くの如き荒廢地に到らざる完全なる森林に對しては、各所有者の願慮を一層ならしめ以て適當の作業を營むるにあり。而かして森林經濟は農業と異にし、相同じからず、即ち森林は收穫の時期長くして、彼の農業の如くに春季下種する時は、秋に至りて收穫を爲すが如き一年にて其結果を見る事を得ざるの故を

以て、今急に多大の木材を需むること難しされば豫め其の計劃を以て森林事業に従はざるべからず、然らば如何なる計劃を以て之れが經營に従ふべきかと云ふに、一時に森林を滅亡せしむることなくして、間斷なく成立せしむる所謂植伐の平等を保つるを以て最善の方法と言はざるべからず、尙之れを評言せば、森林は年々伐木するだけの面積を必ず植栽し、又植栽するだけの面積を伐木せらる、時は、其の森林は鬱蒼として百年を経ると雖も、殆んど永久に絶ゆる事なからん、例へば茲に百町歩の森林ありとして、悉皆之れを伐木すれば翌年に及んで伐木すべき余地なからん、斯く一度に皆伐し盡さば其の森林は消滅して、亦生せざるが故に幾分づ、伐採し幾分づ、植栽する時は、永遠に亘りて森林は絶ゆることなし、されば之れを伐採するには其の順序方法を定めざるべからず、即ち百町歩の森林ありとせば、毎年一町歩づ、之れを伐採し、跡地に對しては直に植栽すれば決して幾百年を過ぐるも其の森林は絶ゆることなき所謂輪伐法を行ふのこと最も肝要なり。

次に伐木の方向は地形及風雪等により一定せず故に爰に一定の方向を示すべからずと雖も其の最も注意すべきものを云ふべし烈風の脚側へば南風烈しき地に於て輪伐區劃を立るとは南面を第一區と定めて此の之を伐採するときは隣接の第二區の林木は相俯る處を失ひ一旦強風大雪に遭ふときは忽ち倒れ又は折れて枯損するもの多し甚だしきは其の害森林の大半に及ぶべし故に南風烈しき地は北より伐り北風烈しき地は南より伐採すべし併し南方は日光を受けること強きを以て北風強烈ならざる地は可成北方より伐るべし(北方より植栽する時は日光は前林に遮られて照射の憂なし隨て植栽せし林木の成長は甚だ佳良也)又雪積深き山岳地に於ては高處より伐り始めて低處へ伐り下るときは高處の伐採跡地は上部の積雪類れ皆此處に堆累し自生苗及び植栽苗木又は萌芽樹を害するの恐れあり故に斯る場合には概ね低處より伐り始め漸次高處に伐り上るときは稍々安全なり但し頗る大木の林なるか又は土砂崩壞の恐れある地は低地土砂崩壞の恐あるを顧みず低處より伐り始めるときは其の地忽ち崩壞し殊に上部の森林を根倒しすることあり、故に最初造林の際には伐木の順序を考へ事業に着手すること最も必要なり

此實驗では栗の樹に小さい孔を造つた其孔には其後清潔な接樹膠を注ぎ込まれたやがて硬質の樹質が其處に成長三年の末傷口を塞ぎ分らぬやうになつたまた樹葉から濕氣の蒸發が十分に行はれさへすれば如何なるに窮す故に營業者は此点に注意し早々實施の域に至らんことを希望するものなり(完)

樹木の病害除去

樹木の内部に薬液注入奏効栗

合衆國農務省のラムボルト博士は樹木の病氣治療法に付て曰く、從來樹木の外部より其病氣を治療するは色々試験せられたが多くの寄生菌の如きは深く樹皮の下に潜伏して外部から治療したのでは伸々奏効が覺束ないそこで樹皮の内部に薬品を注入する事にまりて其目的を達する否かに付十餘年前から試験を續けたが近來栗の木に付試験した處では頗る好成績を得て居る

薬液が注入されても差支ない事が分り有機的の液の方が無機液よりもよく吸入せられ六七月を最良として八九月若しくは四五月頃が樹木が薬液吸入の最良期と知れた炭酸リンウム及水酸化リンウムの稀薄液を春及初夏の候注入すると栗の樹に發生せる菌類は發育を止め其患部の端には硬結が生ずる事が發見せられ或場合には患部の組織が乾燥して指先で摘み採るを得た此れを思ふと此方法が更に研究を進めたならば注入療法上で樹木の菌及虫害を除去する時期もあるだらうと云ふのである(萬朝)

諸君に望む

菊地

來年の五月で本校も滿二十年になる郡立で始まつた微々たるものか今日では本縣唯一の堂々たるものとなつた一年一年と向上し發展するのは誠に喜ばしい事である卒業生を出すこと六百有余國家に貢獻する所も尠くはない茲に吾人は二十回紀念を大に祝福すべきである扱て如何に紀念すべきかに就ては種々の方法があらうが自分は理科標本を一品づ、送つて下さればよからうと思ふ。本校の理化博物の現状は諸君の熟知する所改めて申す必要もないが頗る遺憾千萬である貧弱なる標本では充分なる授業は出來かねる實力が養成されまい本校に於ては理科方面の充實は急務ではあるまいか。

アメリカのある都市で所謂智識階級に属する人々十数名に小學校風の問題を課したら殆ど及第点は採れなかつた。是は學校で授ける智識と實際世渡りする上に要する智識の間には何等かの欲陥のある事を教へるのであるまいか。

學校と社會とは常に聯絡を保つて居らねばならぬ。社會は進んで行く。變化して行く。其に對應する様に教育せねばならぬ。従つて諸君は學校を顧みての所感を私に送つて貰ひたい。私は理科方面の立場から實際社會に活動する上に如何なる智識と技能とが必要であるかを知りたい。又かうあつて欲しいと思はれる事を教へて貰ひたい。自分は最善の努力を致したい。

其三

過日も林業に關する會合は東京に開かれた農學校には林科が附設された所もある。林業の盛衰は國家經濟にも大影響を與へる。従つて林業は益々社會から注目されて來た茲に於て各校とも内容の充實と改造とに汲々として日も足らぬ有様である。然り而して本校も愈々來年度は面目を一新せんとする。標本の蒐集教室の改造圖書の買入進んでは生徒に實驗を大に課する次第である。願くは諸君、この祝すべき二十週年紀念にあたりて諸君の鞭撻と援助とを切望する。猶新に入學せんとする人に學校の内容を傳へて貰ひたい。

問題の提唱

宇志生

□ 倦怠の夏が過ぎて緊張の秋が来る。所謂政治季節に入つて政治家も政治家も地方の有志もさては橋さては道さては學校と陸續として縣廳への御入來者が絶へない事はない。希望、運動、洵に以て熱心な事どもである。

□ 然し乍ら其の郷黨の爲めに他に卒先して又他を叫合して眞に運動又は希望の開陳をなさんとするものは假令それが名を賣らんとする者であるものによせよ其志や多とすべく其努力や稱すべしである。先んずるものがないれば進歩も改善も之を行ふ事難きを思はなければならぬ。

□ 近時林業界の先覺者林務當路者の態度は聊か沈衰せる傾があるではないか。戦局以來の好況時にも對外關係に於ては世人一般知られざる策書もあり施設もあつたらうが對内方面に於ては徒らに世の趨勢に放棄して將來の爲に將現實の繼續のために何等世を指導し又は善導したるの例を見ない。公有林野官行造林法を以て唯一の政策とし是によつて解決を下さんとするが如きは餘りに期待の裏切らるゝを豫期しなければならぬ。

□ 經濟界は尙混沌として其の歸着すべき安定の港灣に到着するの日を豫測し難し。僅

木曾植物目録

春以來。演習林を中心として植物の調査をして居るがまだ充分に研究が届かぬ。四月の末から急に花が多くなり九月始めからは遽に少なくなる。兎に角第一回を發表する事にした東京附近と大差なければ又木曾固有のものも少なくはない。

菊科、タンボ、フキ、キンボンヤリ、ヂシバリ、オニタビラコ、ハ、コグサ、キツチアザミ、ヒレアザミ、カウゾリナ、クケニグサ、アキノキリンサウ、ヒムカシヨモギ、ガンクビサウ、イヌヨモギ、フヂバカマ、チ、コグサ、キクアザミ、ミヤマアザミ、モミヂハグマ、メナモミ、ヤマボクチ、フケラ、ヨメナ、ユウガキク

毛茛科、キクザイイサウ、ニリンサウ、オキナグサ、キツチノボタン、キンポウゲ、バイカモ、カザグルマ、レンゲシヨウマ、アキカラマツ、ボタンヅル、トリカブト

罌粟科、ヤブエンゴウサ、ヒメエンゴウサ、クサノフウ、ムラサキケマン、ガマンサウ、オニケシ

唇形科、ツルカノサウ、ジノニヒトヘ、ホトクノサ、サギゴケ、キランサウ、オドリコサウ、タツナミサウ、ウツボグサ、アキノナムラサウ、クルマバナ、ヤマハツカ、チキナタカウシユ、コヂヂサウ、望々菜科、スミレ、エゾスミレ、イヌスミレ

(其他スミレの種類頗る多し)

旌節花科、キフデ、蓋薇科、ツチグサ、キジムシロ、ボク、イチゴ、ザイフリボク、エンレイサウ、コデマリ、ヘビイチゴ、ノイバラ、ナ、カマド、キシミツヒキ、ワレモカウ、ミヤマフユイチゴ (未完)

ハガキ便り

十月十六日社有林の用務を帯びて群馬縣の五技手と妙義に出張中文岳神社に二泊する翌日十七日雨中社後の轟岩に登る。回顧すれば已に九年前修學旅行の記憶に耽りつゝ、今紅葉の我妙義が自己のバン區域にならんとはア、又圖らざりき(妙義より)

十一月十四日再び寺百林測量の五技手を妙義に訪ふ。彼の旅行當時無意義にも建築中なりし森林測候所にも厄介になる。例の葺屋こと養氣館には今尚キンバ君ありや否や不幸にも木曾の五君千葉の五君と共に押掛けた茶屋又は可愛盛りの君子さんも今如何にや途探すことを得なんだ。(妙義より)

廣高原に唯一人枯野に腰を下してムスビを頬張るつひ手近の淺間の憤煙を見乍ら一風は冷たい

ア、今僕は信毛の國境にあるのだ山陰から強い流笛を聞く輕井澤ステーションも直ぐだ沓掛には七年振りの五君三年振りの五君が待つて居るのだア、寒い(輕井澤より)

かに八ヶ月以前に於ける有頂点の農村も爾余の暴落林産物の低落停止より更に米價下落の趨勢は急轉直下的に激變を與へて再び農村政治の叫びを起さしむるの域に至らざるなきを保せざる。

□ ボルシェヴィズムの世界浸透は可なりなる程度に於て彌漫せんとしつゝ、ある。共產主義の宣傳も又無産階級の多くの心中にその芽を萌じつゝ、あらんとする。労働者は資本家の奴隷ではない。又器械でもなく且使用人でもない。人格を認むる處の對等的地位である。と主張せられて來つた。現代思想上の動搖は一大本教が彼の如くに問題の渦を起しつゝ、あるに依つても知り得る。

□ 不世出の英傑が飛出して此の一世の危機を解決し救済するが如きは今後到底期待し得べからざる事項である

□ 日本國民は日本國民としての意識の上に其密集したる集團の理解せられたる土臺の上に最も徹底したる最善の打算によつて所謂其行ふべき處を定めなければならぬ

□ 其政治上の問題も茲に迄漕ぎつげなければならぬ。分科的科學主義は遂に人をして國民的觀念政治的觀念から脱せしめた痛快なるサークルを構成せしめなくては止まない弊のある事を否み得ない

□ 苟も將來の燃料問題を考ふるならば單に石炭、石油の問題を研究するを以て満足し得られざるは明で木炭としても其原料の將來に向つては國家的施設として將國力上の

要素をして一貫したる方針政策がなくてはならぬと信ずる

□ 其他林業上の諸問題も確固たる其經濟界の變動の度によらざる如き猫眼的ならざる方策即ち國策縣是と言ふものの樹立せられん事を切望するものである

□ 茲に私の題目は及ばすと雖も左の問題を提唱して我校友諸君の研究と報知と交換とを切望せざるを得ない。國策縣是の要素たらざる迄も吾人等の林業上に於ける全部の力は左程に輕微なる又自らを賤しむべきものでないと思ふ。さうか忌憚なき意見の經驗を發表せらるゝならば更に又それに對して紙上の批判、公評を爲すならば林友としての使命も有價値たるを信ずるものである

一 森林組合の眞活動

私有林の共同經營は其改善進歩上の最良方法であり其の効果の顯著なるや瞭然である。故に現在活動しつゝ、ある例又は其意見等を可と認む

二、木炭に關する諸問題

假令製炭法或は具體的成績若くは改善の施設計畫又は木炭同業組合の成績次回には本縣が開催したる懇談會の狀況及意見を報告したいと思ふ

三 林業上の新事實又は重要事項

公有林野の統一整理上の顯著なるもの或は林産利用上の新事實其他何事に依らず報告を各まされば林友の批益鮮少なからざるや明である。

初雪の日に

木曾日義村出張所 桑花子

「毎年の年ならねえ、今頃此邊は一面雪に埋つて居るのね、まあ今年とした事がどうしたんでせう全で春先の様な気分じや御座いませんかでも結局お客さんの如くに他の御仕事をなさる方にはよ御座んすよえ、え妻達だつて余つ程助かありますのよ」

「オホ、まあかね」昨夜夕飯の給仕に來た東京生れとか言う若いお女將さんこんな會話をしたものだ、今朝七時半頃目醒めると妙に部屋中が白くぼく明るい、はてなあさう思つて枕元の障子を開けて寢床から外をのぞくとこれは意外何時頃か降り出した雪が五寸も積つて居る、それ計りじやないまだ、粉雪が向ひの山の見えない迄に降り切つて居る何と言ふ事だらう昨日の暖とい小春日から一泊飛びに此雪の日を現出するとは、ま、ようんどこさ寝てやらうと思つて障子をピツシヤリ閉めそのなりふどんをかひつたかもうねひらけなかつた、それもろの筈昨夜は八時頃床に這入つて雪の降るのも知らずにグッスリ寝込んで居たので、よんの中様々の空想が頭の中を右往左往したふと昨日讀んだ中央公論の俺の種多時代と言ふ説宛中に有つたエピソードのモスモス俱樂部

部と言ふのが余り引つ越す處からシマズ俱樂部と變更したと言ふ珍文句を思ひ出して苦笑した自分の桑花子も十年この方呼びなれ下來たが何んとか旨い駄洒落がつかないものかぞ考へたが思ひ付けなかつた、總菓子は一番よかつたが酒も饅頭飲める煙草も人一倍に喫めるので止めた、下女が炬燵の火を持つて來て、「起きませんか、起きませんか」と停車場の呼聲をまねて起こしに來た

「次は朝飯の光景」朝食も寒さに型の如に終へた膳をさげる時に、「次は晝寝の光景と來た下女はいかにも執念つく云ふ女だと思つた」

「お役人様の如じやないわ」

「い、位どい、加減どの掛け合せだ」「面白い事はつかり」

「君の方が余つ程面白いよ」晝食後うしろに寝轉んで障子を開けて見たが雪は益々降つて居た。あ、もう今年の外業は駄目だ、従つて勉強も終りだ。すると豫算が大分異つて來る、暮の勘定に四十圓からの相違だ、俸給が四十五圓年末の賞與が四十圓合計八十五圓それに旅費の六月からの追給が約百圓總計百八十五圓處がその百圓は宛にならない八十五圓じや新調の洋服代を拂つたら十五圓しか余らぬ勘定だ年の瀬をどうして越せばよいか聊か心細くなつて來たおてんどう様も余つ程悪戯者だもう廿日間天氣がよかつたらなあど恨めしくなつても來たと言つて何所へ御無心する宛もないお親爺に頼んだ所で目玉位が關の山だしが、あももちつと眞剣的に稼いでくれたらいい、が見つともないフェースの所有者のくせに着物の何んのとそつちへばかり持つて行つて終ふ自分の社交費を云々するくせにと飛んだ所へ仇打ちの剣先が行く而し此際か、お大明神だ十圓でも廿圓でも安心が出來ればこれに越したる事はないそれから起き土つて書いた事もない愛だどか理想だとか云ふ文句を使つてお世辭だら〜鼻の下の長い手紙を書いたそれでもこちらから頼むとは眞直ぐに云ひかねた。こちらから頼むらんそんな意氣地なしな事は云はない而しこちらから進んでくれる

のが當然じやないだらうか其時こそ自分は嬉しく受納しやうとは何んと言ふ片意地な人間だらう、讀み返して見て自分で自分が嫌になつた、其處へ直ぐ隣のN村へ出張して居る同僚のNからお定りの幾晩の泣き言を書きつらねた葉書が來た、何の事つた自分達の仲間を大きな眼で誰かが見て居たら嗚っとななる者よと云ふ事だらう奮發して大言壯語した返事の葉書を書いた而しどうせ「奴さんから元氣を出しよする」位が思はないに定まつて居るが眠くなつたので勝手に押入からよんを擔ぎ出して炬燵に横になつた夢でか、あが微笑を見たそんな自分か、あを思つて居るのかしら目醒るともう邊りが薄暗にござ、れて居た外は静かに降つて居る氣配だつた炬燵の中の足が油汗でベトベトして居た何んか止る瀬ない寂しさが迫る孤獨な憂愁それから便所へ行つて來て見ると炬燵の上にか、あからの手紙が來て居た開いて見ると年末迄には百圓位は都合してお送りしますとあつた矢張りか、あは偉い自分の事を皆知つて居るこれこそか、お大明神だと譯もなく嬉しくなつてしまつたこんな事なら先刻の苦しい手紙など出さなんでおけばよかつた甘い處を見抜かれて了ふまい、〜切りの心の中叫ぶものがあるの理想の芽は他所道へ連れて正月は何處でしょう温泉でしようか温泉は何處がい、だらうなど煙草を燻しながら塗方もなく考へた事だ

「御飯を喰はなかつたら死んで終ふでせう」「それは判らないね而し一人でさへ今日此頃碌に喰べないじやないか二人になつたら到底やり切れないねそれとも飯を喰はない人間があつたら今直ぐでも貰ふんだがね、君は如何う」「妾賛成だわ」「俺の理想は美人で働巧で喰物いらすず持參金があり出來る事なら金の卵でも産んでくれるのなら……」

「お役人様の如じやないわ」

「お心安くて！」
 など、勝手な事を云ふまゝがうれにおだてられたのでもなかつたがそれから調子づいて自分でも判らない三十や四十の月給取りがお役人様面が開いてあきれると云ふ様な事をくどくど喋舌つて部屋へ歸ると直ぐ床へ這天つた、明日もどうせ休みだ寝てやれ、其時はもう幾晩も経済も糸瓜もなかつた始めのうち何か歌を歌つて居たと思つたが何時か眠つて居た喉の乾きに醒めると十一時の時計がなつた、一九二〇、二二七日作

箱根土産

今野啓藏

口運沼主幹の講演
 明治四十四年北極探險隊の二行は、船長ロング氏の指揮の下に米國を出帆した探險隊の船は氷山に圍まれて、進退谷まり己むなく船を棄て、氷島上に危険の旅りを始めた。一行は嚴寒と疲労と饑餓とに、弱り果て、病人さへ多く出来て一日僅か一里も歩み得ぬ、ロング氏は配下の勇氣を鼓舞しつ、南進を續けて居つたが、そこに一つの驚くべき事實を發見した。それは船長が六分儀と稱する器械で、太陽の高度を測つて、自分等の居る位置を測定した處が一行が斯くも苦しんで氷島の上を南進しつ、ある其の氷島は、却つて北方へ流れつ、あるのだ。一行が八日の間懸命で旅行した結果は、最初出發した位置よりも

更に八九里の北方に在つた
 代言はて、までとします
 死といふ事實に接した時は誰でも戰慄するけれども自分の生活を本氣で暮して居る人は少い、可笑しいやうだけれども仕方がない我々の肉体は必ず死にます、此の死ぬといふ事が明瞭なる肉体を本体として、生活せんとする人は其の生活が一步々を死境に近づく事になるでせうすると其の生活が全く無意義なものでありませぬか、我々はもつと靈的に生きねばならぬ、深き生活を送らねばならぬ

私は今運沼先生の説かれた勝利の生涯といふのを紹介します、勝利の生涯とは
 一、希望に輝く生涯
 二、感謝に満ちる生涯
 三、歡喜に満ちる生涯
 四、愛するの生涯
 五、奉仕するの生涯

をいふ、愛せらるゝ、事のみを思ふ人、信用を得ん事のみを思ふ人には、愛せられざる時又は信用せられざる時の悲哀が伴ふ、これ敗北の生涯です、金が無かつたら財布の音のみでもよいから與へよ、強者は常に求めずして與へなければならぬ
 □八月十七日の日記
 何時だつたか兄はかう云つた、中太りは一番よいと、今日は五日間の講習中の一日だ、ウーソンとやらねばならぬと遙拜式の時確く誓つて、運沼先生の朝食前の講義は、

歡喜感謝の生涯といふ題であつた、運沼先生は確に現代の聖人だ、食後後藤先生の講演、あ、僕は斯う書いたばかりで涙が出る、我は忘るな、今日の午前十時を、僕は真に泣いたのだ、僕は〇〇〇の爲に死ぬのだ、死なねばならぬのだ、午食前岸田神戸部理事長、午後山崎先生の御講演、二木博士御來場、家族會

口色々の事

天幕講習中は何か一つ書かうと思つて原稿紙も持つて行つた、處が原稿紙をこぼしてやない、自分の大事な日記さへも書く暇を見出す事が出来なかつた、外に家庭日誌も書かねばならぬ、一日一善日誌もつけねばならぬ、向上及び向上日報へ出す處の投書も書いて呉れど家長さんから頼まれるで自分の日記と友へのハガキは講演の事記中隙をねらつて書いた譯です

此の純な生活に家族の人々はみんな子供のやうに無邪氣でした、質素な食事も崩れるやうな笑聲が聞ける、夜なんかは更るまで自己の今迄の生活を赤裸々に告白して、共に涙を「今日の後藤先生のお話によつて自分はほんとうに暗から救はれたよ」
 「さうだ、たしかに後藤先生の講演は天下一品だ」などと語りあふ
 今日三木博士も一緒に成つて仙石原村に至る道路の大改修をやつた、石を運び砂を握り時間までには見達へるやうな道路を完成してしまつた

向上役場の掲示板には「閑院若宮殿下明日午前八時御臨場の筈」とあつた嬉しい

心のりをり

ある時は雲にも似たる心もて日をも被はん
 吾が心はも
 はてしなく流るゝ水に眺め入り奥の容に山の影見る
 世の中は之忘れぬ人の少きに忘れんと祈る人の數々
 寂しさにうれしさが、大空の深さを見た
 り枯野に立ちて
 小春日を外やましくも子供等に文字など教へ一日過しつ
 世の人の總べてを呪ふ心して見れば友にも角にあるらし
 枯れはてし山の谷あひ銃をうち獲物をよりに音に聞き入る
 木曾の冬雨の注ぎし霧罩めぬ春にも似たる
 甘たるさかな

旅の世

サクサクと雪の中
 歩いて居る、歩かねばならぬ
 寒い北風が
 アルプスの峰から下して来る
 枯れた木々

常磐木にも
 一面に霜が
 凍つて美しい
 恰も白銀細工の雛形の様
 方言では
 木花が咲くと云ふ
 黒羅紗の帽子
 同じ填襟の洋服
 金釦の外套
 市の中學にセッセと通ふのだ
 秋津が中の字を叩へた
 徽章を付けて
 それは私です
 其私が
 後に後にと
 幾箇も姿が
 段々小さくなつて
 扮装こそ違へ
 顔付は同じな
 それも皆私です
 歩くに伴つて後に残した
 又前にも見えます
 都大路のたゞ中にポツポツと
 辿る姿は緋に袴の大書生
 時には友の件もある
 楽しく語りあふ時
 苦味きつた顔
 オツキアヒと云つた風な折
 望に充ちて小急ぎの二人
 落膽して

倚いたなりふり悲し相
 或は背廣を纏ふ田舎町
 又は淡雪が
 降る南国に
 岩鷲山風の北國に
 他所から見れば
 面白い
 走る、驟く、倒れる、引返す
 威張つて行く笑止もある
 スケートで歸ることも
 高足駄のカラコカラコロ
 稀には産ませ女件れて

次第に雪は積る
 私はどうとう見事な時に出た
 十年と云ふ
 此時から越し方、行末を眺める
 智慧の實食うて懲々した顔で
 それでも爪立つて
 桃の様、柿の様な
 枯木に垂れて居る
 果實を三ツニツ、取らうとする
 して旅の心か
 見物はやめな
 若い人と人との引張り合ひ
 四十路に餘る玩具も見た
 緑の草原二ツの雌蝶雄蝶の
 行末にも心残して
 且は恐ろしい
 金が仇敵か

短刀振つて
路上に刺す

はつと我に返る
何だいつまない
幻象……

ペンを握つて恍惚、机に向つて居たのだつた

露領沿海州より歸りて

山下藤一

拜啓 各位益々御清程之段奉賀候、陳者廷生儀本年も昨年に引續き露領沿海州イムベラトルスカヤに於ける商會の伐採權既得權地たる森林地並に隣接(約四十六町歩)の森林踏査の爲め七月初旬内地出布目的地に於ける右諸調査並に丸太材約五百石の積出の用務相済み候處時々降雪に見舞はれ候のみならず海岸より二三間の間は結氷をも見るに至れるを以て越年者四五名の外全員十月末日の終航より引揚げ今月四日小樽に上陸歸着致し申候、渡露中も校友會報の御郵送に預り誠に有難何か先地の見聞をものせんものとは始終存居候ひしも、何時も意に任せず且亦校友諸兄に對しても御無沙汰のみ致し居り誠に申譯なき次第不承御了承被成下度此儀重に御詫申上候、先は右御挨拶旁々如斯に候 (校友會宛)

學校日誌

十一月一日

十月一日 本日より來十二月に至る迄十日間の豫定を以て秋季實習を開始す
二日 關東聯合教育會(長野市)へ左記陳列品發送
三日 木曾五木標本、全苗木、木曾運材寫真
四日 長野縣農事試驗場講習生二〇名參觀す
五日 大町實科女學校生徒參觀、花尾助手就任
六日 奈良農林學校生徒二十名參觀
七日 山梨縣上手小學校生徒四十名參觀
八日 本校生徒約六十名西澤教諭に引卒せられ豊科に於ける信濃山林會に出席
九日 西筑摩郡小學校庭球大會を校庭に開催、優勝神坂小學校也
十日 實習終了馬蹄蓄收穫百卅四貫
十一日 第二回紀念運動會を開く、各自勇奮健闘、觀客亦例年に倍す
十二日 愛媛縣宇和農業學校生徒三十名參觀
十三日 上伊那准教員養成所生徒二十名參觀
十四日 校友會辯論會開催、小島博士の講演あり
十五日 教育勅諭三十年紀念式を舉行
十六日 明治神宮鎮座祭遙拜式を校庭に舉行
十七日 職員室に火鉢入る
十八日 宿舎各室に火鉢一個宛分配

火を入る
廿三日 發火演習あり
廿八日 宿舎に炬燵新設、竣工す
十二月七日 初雪終日、積ひ事二尺に及ぶ
八日 職員室及教室のストーブ焚き初む
十三日 新任教諭安藤眞佐志就任紹介
廿一日 大掃除明日より冬季休業

會員消息

成瀬義郎君 山梨縣南都留郡谷村町縣山林課出張所へ轉任
長田克己君 甲府步兵四十九聯隊九中隊に一年志願
柳澤得衛君 郷里更級郡桑原村にて伐木從事
平田稻男君 本縣下伊那郡役所に轉任
島田雄太郎君 鳥取縣日野郡役所に轉任
宮澤末雄君 東筑摩郡坂北村に歸郷せり
可兒敏郎君 名古屋第三大隊第一中隊に入隊
星加晴雄君 龍山歩兵第七九聯隊第九中隊に入隊
長崎信一君 宇都宮歩兵六六聯隊第二大隊第七中隊に入隊
梅村計介君 岡山縣邑久郡裳樹村虫明保護區官舎に轉任
熊谷清逸君 北海道空知郡地方費森林林若

見澤事務所に轉任

○加茂憲太郎君 岐阜縣大野郡高山町大野郡立病院入院加療中

○唐澤正義君 北海道 別營林區署を辭し目下郷里南安曇郡鳥川村に歸郷中

林友代領收報告

山下藤一君
金壹圓也
征矢三郎君
金貳圓也

第二回紀念運動會 決算報告

庶務部

○收入之部

金拾六圓拾錢也 校友會運動會費豫算
金貳百七拾參圓參拾錢也 寄附金總額
計貳百八拾九圓四拾錢也

○支出之部

金貳百貳拾壹圓拾七錢五厘也 支出金總額
内 譯
金拾八圓貳拾五錢也 庶務部
金四拾壹圓五拾六錢也 賞品部
金九拾圓參拾五錢也 接待部
金貳拾圓〇一錢五厘也 競技部
金貳拾參圓拾一錢也 裝飾部
金拾壹圓貳拾六錢也 餘興部
金六圓四拾三錢也 音樂部
金壹圓六拾八錢也 賣店部
金八圓五拾貳錢也 借物部

差引

殘金六拾八圓貳拾貳錢五厘

編輯後記

○赤裸々に醜い肌へを私たちの前へ剥き出して居た蘇峽の山々ももう真白く雪に蔽はれるようになりました。
黒川の奥から杭の原の谷を吹き下す風の冷たいこと。と言つたら本當に泣き出した位です。ある朝などは演習林の枯木に木花が吹いて真白くなつて居た事さへあります時の流轉——何時もながら氣世話しい様な感じがひ、と湧いて來て年の瀬に入つた様です。又々再三の遅刊で申譯がありませぬ。實際雜誌を作るといふ事は私たちに重い負擔であります。内容改善上將又編輯上の技巧に對して多少なりとも抱負を持つて居る者はそれをぞんざいには作り上げたては無い。それで居て己れの力に伴はざる時に大きな焦燥に陥らざるには居られせん色々な忠告——侮蔑に近い、そして嘲罵に近いもの——受けまされどそれになつと耐へて行く私たも辛いものです。嘗つて私は「お前自身の姿をこの活字の一つ一つに明らかに表現して」下さいと頼みました。が目新しい人はまだ原稿を送つて下さいませぬ。

せん。原稿がないのかブーアだ」といふ代りに原稿の仕末に困る程送つて貰つたら何の位か有難いかならないのです。
○運刊に對しては色々な止み難き事情がある事私たちが怠けるからだとは言つて貰ひたくありません。それを思へば病める身にも頼つて之れを作り上げるのです。公共に對する奉仕として悲惨な感が胸を打ちます。
○本號は頭痛を耐へて病床で編輯したものですから本當に無茶です。第十二頁は眞白ぢやありませんか。感傷的な病的心理はこれを書いても書いて呉れぬ皆のせいにして一種腹立たしさを覺えます。卒業以來一度も書かない人——單純な私たらの心は直ぐさういふ人に對して冷酷な人だと思はずには居られません。
○忠告は私たちの激勵になる。嘲罵は私たちの憤慨の因となるだけです。そんな人には雜誌を作る事が——それも毎月である、まして一面には其日の學課を控へて居る事かと思つて貰らふ——どんなに苦しいものだからといふ事を見せつけてやりたい。
○先號の附録は誤植がたんとあつて閉口しました。あまり甚だしいので正誤表も出せないので。悪しからず。病床にて

大正九年十二月廿三日印刷
大正九年十二月廿五日發行

【定價金參錢】

長野縣西筑摩郡島田町四〇番地
編輯兼發行人 安井正夫
長野縣西筑摩郡島田町三九番地
發行所 蘆澤書店

長野縣松本市小柳町八十五番地
印刷所 淺川吉藏
長野縣松本市小柳町八十五番地
印刷所 淺川活版所

林業

昭和十二年四月廿五日
六月八日

第一

林業の発展
昭和十二年四月廿五日

林業の発展
昭和十二年四月廿五日

林業の発展

林業の発展

林業の発展

林業の発展

林業の発展

林業の発展

林業の発展

林業の発展

林業の発展

林業の発展

林業の発展

林業の発展

林業の発展

林業の発展

林業の発展

林業の発展

林業の発展

林業の発展

林業の発展

林業の発展

林業の発展

林業の発展

林業の発展

林業の発展

林業の発展

林業の発展

林業の発展

林業の発展

林業の発展

林業の発展

林業の発展

林業の発展

林業の発展

林業の発展

林業の発展

林業の発展

林業の発展

林業の発展

林業の発展

林業の発展

林業の発展

林業の発展

林業の発展

林業の発展

林業の発展

林業の発展

林業の発展

林業の発展

林業の発展

林業の発展

林業の発展

林業の発展

林業の発展

林業の発展